

夏旅 2020 ～スコットランド・ハイランド地方へウィスキー蒸留所を訪ねた?～  
とてとても長い寝言

佐伯 順弘

(現実)

- ・2019年8月頃  
2020年夏旅 2020 の構想を始める。
- ・2020年3月22日  
夏旅 2020 の概要を決定する。
- ・2020年3月30日  
東京オリンピック 2021 年夏に延期決定。
- ・2020年4月6日  
岐阜県美濃加茂市4月7日の小中学校入学式実施及び4月8~19日休業を発表。
- ・2020年4月7日  
日本政府 緊急事態宣言
- ・2020年4月10日  
岐阜県 非常事態宣言  
岐阜県美濃加茂市4月20~5月6日までの小中学校休業延長を発表。
- ・2020年4月24日  
岐阜県美濃加茂市小中学校の5月31日までの休業再延長発表。
- ・2020年5月16日  
2020年度のこすげ冒険学校の中止発表。
- ・2020年5月17日  
旅の同行者青樹に夏旅中止の連絡をする。  
2021年に今回の夏旅を実行することを合意。
- ・2020年5月20日  
岐阜県美濃加茂市小中学校の5月25~29日での登校日設定及び、6月1~12日の分散登校を発表。学級を半分にし、同じ授業を二回実施。
- ・2020年7月31日  
岐阜県「第2波非常事態宣言」を発令。美濃加茂市は全部活動中止、中体連代替大会消滅。
- ・2020年8月3日  
WHO テドロス事務局長が新型コロナウイルス感染症について、「特效薬は現時点で存在せず、今後も存在しない可能性がある」と発言。
- ・2020年8月08日  
世界の感染者 19,266,406 死亡者数 718,530

(そして、話は寝言エリアへ)

◆2020年こすげ冒険学校

29JUL2020

2020年。今年はオリンピックがあるということで、いろいろスケジュールが変わった上に、3年生所属ということで夏休みもいろいろ拘束されるかと思ったが、そうでもなかった。そこで、2019年の反省から近年にない前入りをすることにした。反省とは、準備作業に対する配慮の完全欠落についてである。自分が楽しいから参加する、自分が楽しくなければ参加しないという無責任なお客様の思考は基本的に失われてはいない。しかし、それが自分でない誰かの努力の上に胡坐をかいている行為ならば、それは耐えられない。2019年夏、自分のやってきたことはそういうことだったと気づいてしまったのだ。本来、そのような人間は嫌いだ。他の人々に同じ発想を持ってほしいなどは微塵も思っていない。早い話が自己満足である。最初から最後まで、徹頭徹尾、自己中心的な人間なんだから仕方ない。だっていやなんだもん、だって気に入らないんだもん。で、すべて理由付けが完了してしまう程度のことである。

現在、自分にとって冒険学校に参加することは年中行事レベルの楽しみとなっている。全体の流れを大切にしつつ、それに加えて何かを発想して、やりたいことをこそっとやるのが楽しい。もちろん、先輩風を台風の如く吹かせるのも好きだし、好きな飲料、食料を持ち込んで、時間と場所を共有するのも大好きである。その中でほんのわずかでも、今までこの集団から得てきたものを、そして考えてきたものを次に繋げられたらうれしいとも思っている。そんな楽しみをできるだけ後ろめたさを感じない状態で存分に楽しみたいと思っているからこそその前入りなのである。

少しでも涼しい時間に移動しようと早朝から中央高速を適正にぶっ飛ばし（最近はおおり運転などという無粋なまねをする輩が多いため、高速車のスリップストリームに入る事さえ躊躇

する。)予想通り、オリンピックがらみで若干車は多かったが、いつものキャンプ場に入ったのは1200頃である。昼食はSAで休憩を兼ねて済ませ、大月の711で補助食兼つまみを補給していたので、すぐにでも作業にとりかかることができる。やはり小菅村まで来るとかなりの気温差を感じる。既に黒澤、雫が準備作業に取り掛かっていた。驚くべきことにビールを飲んでいるおっちゃんもいた。青樹は仕事でキャンプなので、途中から参加だ。挨拶もそこそこに、自分の装備を運び入れ、必要なものは冷蔵庫または冷凍庫に入れる。その後、手早く作業態勢を整えた。準備作業は多岐に渡るのだが、最初から飛ばし過ぎると最後まで持たないので、ゆっくりと進める。まずは工兵担当として工作エリアの整備に入る。かなりの落ち葉や土ぼこりが溜まっているのでそれを取り除き・・・8月2日昼ごろ、参加者やスタッフが到着する・・・8月8日は朝から温泉に行って、昼ごろには参加者と一部のスタッフを見送った。午後は、片付け、片付け、片付け。やはり装備は片付けが大切。整備して収納しないと次に使う時、厄介なことになる・・・夕食は滑り台のある食堂へ。唐揚げ定食は安定のうまさ。キャンプ場に戻り、二次会。大ホールに蚊帳を吊って寝る。そして、2020 こそ冒険学校は無事終了していったのであった。

#### ◆夏旅 2020 ハイランドへの旅

##### DAY-1 (9AUG2020) 小菅→成田

XV (いつものオレンジの車) の中には旅の装備を取り出す。既にスコットランド旅行の準備を整え、持ってきていたのである。少しだけ綺麗な服装に着替える。車は黒澤邸のそばに駐車させていただく。車のキーも預ける。そこから、青樹と共に奥多摩駅まで送ってもらう。0930 小菅発。途中、宅配便にて洗濯物を自宅に送りつける。昨夜、飲み過ぎたのではなく胃腸の調子を整えるため、朝食はなし。1103 奥多摩駅発、青梅、御茶ノ水、秋葉原までJR¥1270。そこから獨協大学前まで東京メトロ日比谷線・東武動物公園行¥400。1358 着。

駅からそれほど遠くないところに青樹のアパートはあった。玄関を入ると意外といっちは失礼だが整っている。冒険学校に行く前に、旅行の準備そっちのけで部屋の掃除をしたのだろう。ご苦労なことだ。1LDKの部屋はリビングとダイニングキッチンが融合してなかなか広く、物が少ないのでまるでどこかのモデルルームのようである。きっと快適な住み心地であろう。微かな違和感を覚えないではなかったが、気にすることもなく、大きなソファに腰を落ち着けた。青樹が洗濯をしたり、旅行の準備をしたりしている間、まずはPCを借りてオンラインチェックインである。機内持ち込み荷物だけにするとか重量を12kg以下にするなどを徹底しオリンピック関係で混雑する出国をとにかく円滑に行うためである。2人分のチェックインが終わり、ボーディングパスをプリントアウトしたら一安心。マイルも加算しておいた。後は読書したり居眠りしたりして過ごした。惰眠をむさぼっているとなぜか女性の声が・・・。

「ねえ、青樹くん。久しぶりに会えたのにもう出かけちゃうの？」

「久しぶりって、10日くらいだろ。」

なんだ、女が出入りしているのか。違和感の正体は女の影だったのだ。彼に似つかわしくないういパステルカラーのマグカップ、やけにきちんと片づけられた台所回り。そういうことだったのだ。ま、そうだよな。不思議なことではない。しかし、今更起きるわけにもいかないしなあと思っていると、いつの間にかまた眠ってしまったようだ。

「佐伯さん、そろそろ起きてくださいよ。」

青樹に声をかけられた。時間は1700少し前だった。さっきいた彼女についての追及はやめておく。約3時間で洗濯と準備を終えたのはなかなか手際がよいと思ったがこれも手伝われたのだろう。そして彼女を帰してから起こしたわけだ。いつの間にこんなテクを身につけたのだろう。こんな大胆な奴だったか？そうだったかもしれない。きっとそうだ。まあ、いい。青樹が話したくなったら聞いてやろう。二人ともバックパックを背負い、アパートを出発する。

1722 獨協大学前から乗車。途中乗り換えたが押上まで東武スカイツリーラインで320円。押上からは京成押上線アクセス特急で1914成田空港T2着。¥1190。フライトは明朝1020NRTなので、前泊である。通常のチェックインなら国際線の場合、2時間前に空港に到着してチェックインするところだ。既にオンラインでチェックインしたのだが、そのくらいの時刻にはターミナルに到着しておきたい。何とんでもオリンピックが終わり、出国ラッシュの時期である。どんな交通渋滞が生まれるかわからない。事故発生のリスクも高まるだろう。それらすべてを勘案して、前泊を選んだわけだ。

「ナインアワーズ成田空港」は第2旅客ターミナル横駐車場ビルの地下1階にあり、1泊¥3920というコスパの良さ。チェックインは24h可能である。フロントで荷物を預け、まずは空港の探索である。やはり空港は楽しい。旅に出かける高揚感がそうさせるのか。何もかもが旅の一部として興味深いものに感じられる。少し探索を続けたが、朝食ばかりか昼食も抜いて腹も減っていたので、夕食を取ることにした。4階にある洋食屋に入り、ビールとローストビーフ丼などで腹を満たす。実はセントレアでもローストビーフ丼をよく食べるなあと思いついてから思う。



(参考画像：セントレアのローストビーフ丼)

そこまでこだわりがあるわけでもなく、適切に安くて、標準的に旨ければ何の文句もない。それにしても空港の飯は概して高い。食事後、飛行機でも見ようかと同じ4階の見学デッキに出てみる。暑い！夜なのに暑い！そりゃそうだ。

今日も35°Cを越えていたらしい。汗が噴き出してきたので撤退する。おとなしくホテルにチェックインするとなかなか斬新で快適なカプセルホテルである。フライトの前泊としては良い選択で会ったと思う。

あれほど昼寝をしたのに、糖質を取ると眠くなってきた。青樹とは明朝0630ホテルロビーで集合を確認し、カプセルに向かう。彼も冒険学校の疲れが残っているようだった。カプセルの場所を確認したら、ゆっくりシャワーを浴びて、カプセルで読書。2200就寝。8時間後の0600起床の予定である。

DAY1 (10AUG2020) 羽田→アバディーン

0600きっちりに起床。旅に出ると熟睡していないのだろうか。アラームが鳴る前に覚醒している。すぐシャワーを浴びて、体を起こす。身支度を整え、パッキングを終える頃、青樹も姿を現した。

0700チェックアウト。T2からT1までは連絡バスで10分。想定内ではあるが、かなりの混み具合である。バスを1本見送る。0730T1着。必要はないが情報があるかもしれないのでチェックインカウンターを探す。やはり、2時間半前だということに、既にならんでいる人がいる。ちょっと早すぎるかと思うくらいの予定にしておいてよかった。これは2012年オリンピックで賑わうロンドンでの経験が活かしている。ヒースロー空港から台湾高雄に戻るフライトで到着したときには長蛇の列があったのだ。しかも、オーバースタッフの予測がはずれたらしく、係員が「席を譲ってくれ。」というボードを持って列を回っていた。学生の頃なら確実に「はいはいはいはいはい！」と喜んで譲っていただろう。金銭、アップグレードなどが提供されるからだ。その時は金銭だった。それも驚くほどの！これから何度もロンドンには訪れる予定だからここでポンドを入手しておくことはかなりプラスなのだ。だがしかし、休暇ギリギリのスケジュールでそういう変更には融通が利きそうにない部署に勤務していたので、泣く泣くあきらめたのだ。今回のこの状況は予想通りである。標準的なカウンターオープンが2時間前だが、

それまで後 30 分以上ある。しかも、前にはかなりの人々が並んでいる。やはりオンラインでチェックインしておいてよかった。列を横目にまずは両替をする。どこで行うと一番レートが良いのかわからない。最終目的地のアバディーン空港は初めてなので、そこでウロウロしたくないため、レートなどは無視し成田で行う。¥49300 円で 360GBP。手数料はこんなもんだろう。そしてクレジットカードのラウンジに向かう。ラウンジのソファに腰を下ろし、スマホなどを充電する。日本円を計算して収納し、ポンド財布を用意。後は全てクレジット決済にする。旅行ノートに現在までの状況を詳細に記録する。5 階にあるこのラウンジは、アルコール飲料が 1 缶だけ無料だった。えっ？セントレアは大型ペーパーカップでビールが何杯も飲めるのに。しかもハートランドビールおいてあるのに。まあいい。どうせ長居をしているほどの余裕はない。それに混んでいる。素早く出国すべきだ。というわけでセキュリティチェックへ向かう。ここも並んでいる。パスポートとプリントアウトしたボーディングパスを提示して通過。次は出国審査。当然のことながら幾重にも蛇行する列が長い忍耐の時間を予想させる。しかし、十分な余裕があるので特に焦ってはいない。やっと、出国審査を終えた。まだ、搭乗まで 1 時間以上もある。ありがちなコーヒーショップでコーヒーとサンドイッチ買う。そこで旅ノートを書く。

**0950** ボーディング開始。1020 定刻通り離陸。アルコール飲料、食事、映画、居眠りをくり返す。窓側の席だが、隣は青樹なので遠慮なく起こしてトイレに立つ。このわずかな運動が足の筋肉そして静脈を圧迫して血流を促す。それによってエコノミー症候群を防止するわけである。そうこうしているうちに 11 時間 40 分が過ぎ、定刻通り現地時間 1500 アムステルダムスキポール空港着。案内表示に従って乗継ゲートに向かう。ここでもセキュリティチェックがあり、パスポートと次に乗る便のボーディングパスを提示する。ベルトのバックルが金属探知機に反応するからとれと言われたが自衛隊仕様の樹脂

製バックルなので問題はない。トイレを済ませ、顔を洗ったりしているうちに乗継便のボーディング時間になり、穏やかに乗り込む。成田は本当に混んでいたなあ。空の旅はこうであるべきだ。今回の便は 1 時間半程度のフライトである。1640 アバディーン空港到着。ただいま！スコットランド！入国審査を問題なく済ませて外に出ると 1700。そして寒っ！想定内であるものの寒い。半袖で耐えられなくはないが寒い。それはさておき次の移動ミッションである。さっそくバス停を探す。空港の建物を出て右側前方にそれらしきものを発見。No727 のバスで行けるようだと推測し、とりあえず乗り込んで運転手に SYHA アバディーンに行きたいんだと伝えると、親切にも Spring Garden まで言って、そこで No.11 に乗り換えて、Queen's Gardens まで行けと教えてくれた。どこから来たのかというから（岐阜だけど）東京だと答えたら、オリンピックゲームはどうだったと聞かれた。スタジアムは混むからテレビで見ると答えたら、同じだと言われた。ロンドンオリンピックの時は来たんだよと言いたかったが、スコットランドとイングランドは基本的に仲が悪いはずなのでやめておいた。1830 ころバスを降りる。1 時間くらいかかったようだ。探すまでもなく目の前に SYHA アバディーンがあった。1840 前にはチェックインを済ませ、部屋に落ち着くことができた。ユースホステルだが、ドミトリーがなくツインの部屋だったが、ベッドがちゃんと 2 台あって実は正直ほっとした。以前スリランカに、男二人旅したときツインで予約したにもかかわらず、ダブルベッドだったことがある。しかも、夕食に出て、部屋に戻ったらベッドの上に花でハートが描かれていたのだ。あの時は言葉を失ったが、今回はそのようなことがなくてよかった。建物はいかにもスコットランドというような重厚なつくりで歴史の重みと快適性を兼ね備えたものだ。ラウンジも快適でバーも併設されている。ホステル内にはキッチンがあり、レストランはない。とりあえず外の探索である。夜風が涼しい。少し離れているが、ブリュードックというパブを目指す。日本でも人気のスコ

ットランドビールであり、そこが直営するパブなのだ。とりあえず、一押しのビールをそれぞれ1ポイント、フィッシュ&チップス1皿をオーダー。カウンターで支払い、ビールはその場で受け取り、フライドフィッシュは後で持ってきてくれる。スコットランドもイングランドもパブは基本的にこういうシステムだ。ウェールズや北アイルランドは行ったことがないがおそらく同じだろう。

スコットランド1日目に乾杯！US パイントは473mL、UK パイントは568mLなので、ここスコットランドの1ポイントは568mLなのだが、あっという間に消えていく。そして、巨大なフィッシュ&チップスが到着する。どこのパブでも例外なくでかい。イギリスのメシは結構いけると証明する人間を増やすためにまず青樹に食べてもらう。



(参考画像：フィッシュ&チップス)

「いやあ、うまいっす。」

「だろ？」

ということで、少なくともスコットランドの飯がすべてまずいわけではないことがここに証明されたわけである。長く滞在すれば、緑っぱい女性がロゴのコーヒーショップのラテが意外なほどアレだとか、ロンドンの寿司屋のお新香巻きがなんとなくアレだとかわかってくるのだが、基本的にまずくない、いや基本的に旨いのである。ブリュドックを各2ポイント(約1L)と巨大フィッシュ&チップスを摂取して、2軒目に行く。次なる目的パブはプリンス オブ ウェールズである。1850年創業のアバディーンでも有名なパブの一つであるらしい。先ほ

どのパブは出したので、ここは青樹に任せる。何と彼はかなり流暢に英語を操り、ちゃんとおすすめのエールを買ってくるのではないか。しかも、ジョークでも飛ばしたのか笑っているではないか。どういうことだ。

「おい、英語話せたっけ？」

「彼女がイングランドの人なんで・・・。」

なにに！？いきなりここでそういうネタを放り込んでくるか？いや、あの部屋にいた女性の声はどう考えてもネイティブの日本人の発音だった。ということは、複数の彼女がいるということなのか。謎は深まるが、ここはスルーだ。

「そうか、外国語を話したかったらその国の娘と付き合えって言うよな。俺も台湾で・・・。」

動揺して、余計なことを話しそうになった。スルーしてくれ。

「そうですね。でも別にスコットランド旅行のために付き合ったわけじゃないですから。」

さっきスルーしたのに、またリターンパスかよ。待てよ。聞いてほしいのか？突っ込んでほしいのか？どうすればいい。ええい、スルーだ。

「ま、偶然ってのもあるよな。あ、次ウイスキーいっとく？とりあえず、ボウモア12で。」

「じゃ、俺も。」

ボウモアはアイラ島のウイスキーだが、スコットランドには違いない。スコッチならば、何でも地元のウイスキーだ。これからウイスキー修行に行くハイランド地方、スペイサイドはもう回りきれないほどの蒸留所がある。これから何回来ればコンプリートできるのだろう。そういえばコンプリートしたはずのアイラにも新しい蒸留所ができたので再び訪れる必要があるな。ま、アイラは地元みたいなもんだから全く心配ない。定宿認定したホテルもあるし、レストランも何が特にうまいのかもわかっている。ピーターは元気だろうか。ああ、思考がとっ散らかっていた。

明日もハードな一日だから、おとなしく部屋に帰って寝ることにする。青樹が譲ってくれたので、先にシャワーを使い、すぐ寝る。二人旅の時はできるだけ後に寝るように努力しているが、睡魔には勝てなかった。後に寝るのは自分

はいびきをかくという自覚があるからだ。相方がイビキストであれば、問題ないのであるが、翌日、

「佐伯さんのいびきで眠れなかったっす。」  
と言われるのはできるだけ避けたいからだ。  
2300 就寝したはず。

**DAY2 (11AUG2020) Aberdeen→Craigellachie**  
0630 起床。シャワーを浴びたら、身支度を整え、チェックアウト。バスで駅まで向かう。なんとなく乗っても何とかなってしまうものだ。駅のコンビニで水とショートブレッドを買う。旅の健康管理。時間で食事をしない。空腹でないなら食べない。暴飲暴食をしないのはいうまでもない。水は積極的に摂取する。というわけで、腹が減った時用に買った。鉄道で Forres という都市へ。駅から徒歩 15 分ほどで Benromach 蒸留所到着。時間もないのでテイスティングをして鉄道駅に戻る。Forres から Elgin まで鉄道で。そこから徒歩 30 分ほどで Glen moray 蒸留所。ここも一回りしたら、バーで一押しの一杯飲んで鉄道駅へ戻る。そこのバス停から Craigellachie までバス移動。

今日は移動日だがその中に蒸留所訪問を入れるという若干の過密スケジュールだったのだが、意外とスムーズに進み、早めに本日の宿に到着。そんなに慌てることもなかったのだが、結果論である。基本、予定は前倒しが信条である。

目的の宿は The Highlander Inn。併設されたパブが有名な宿で、パブの品ぞろえは圧巻。食事の評判が良いということで泊まらないわけにはいきまい。一人当たり 70GBP ほどで安いわけではないが、給料をもらっている身なので大丈夫である。周辺を散策し、早めにレストランへ向かう。既に多くの客がいたが、席は確保できた。夕食はアングスビーフの煮込みとビール。ウイスキーはクライゲラヒ。これからはスペイサイド、もしくはハイランドで攻めていくとしよう。基本的に朝食はかなりボリュームがあるので夕食は控えめにしておく。というか、控えめにしておいても十分な量である。とにかく歩くことと昼食を軽く、もしくは抜くことで

バランスをとらないと完全に更なるウェイトゲインである。



(参考画像：ウイスキーグラスとメニュー)

夕食後いったん部屋に戻る。部屋にバスルーフがついているので、楽である。シャワーを浴びて旅ノートを書いていると青樹がバーに行くというのでついていく。なかなか落ち着いたよいバーだ。とにかくボトルが多く、圧倒される。とりあえず、ザ・マッカランを味わいながらテレビをみる。サッカー観戦でみんな盛り上がっている。東京オリンピックなどなかったかのように楽しんでいる。ま、終わってしまえばこんなもんだらう。



(参考画像：フィッシュ&チップス)

夕食を摂ったばかりなのにフィッシュ&チップスを食べている青樹の皿からポテトをつまみ、グレンジラントを飲む。知っているスコッチはすべてそろっているのではないかと思う。もちろん、全スコッチの中のほんのわずかしかならないのだろうけど。このホテルには3泊するのでゆっくり楽しんでいこう。青樹を残して、部屋に戻る。2200 就寝。

DAY3 (12AUG2020) Craigellachie

0600 起床。気分爽快の目覚めである。自分の肝臓の性能が少しも衰えていないことを神に感謝する。今日から3日間で蒸留所を回れるだけ回るという作戦である。

The macallan, Cardhu, Glen Grant,  
Craigellachie, Aberlour, Glenfarclas,

Tormore, Glen Livet

隣町の Dufftown にある

Glen Fiddich, Balvenie

その先の街 Keith にある Strathisla

まずは朝食である。イングリッシュブレックファーストならぬスコティッシュブレックファーストである。基本的に同様なのだがブラックプディングと呼ばれるブラッドソーセージやハギスがついているところがスコティッシュなのである。豚の血を入れたソーセージでヨーロッパからアジアにかけてかなり広くそういった食べ物存在している。卵、ベーコン、豆などは共通している。下の写真の右上の黒くて丸いものがブラックプディングである。その左の四角いものがハギスである。



(参考画像:スコティッシュブレックファースト)

なかなか味わい深いものだとおもっているが、もしこのブラッドソーセージをもって、イギリス料理は・・・などというのであれば、ヨーロッパを始め、アジア圏さえも敵に回すことになる。フランスにもあるし、モンゴルにも、もちろん中国にもある。学生の時に中国で食べた赤い豆腐のようなものは確かに衝撃であったが、それをもって文化を否定するつもりはみじんもない。万人受けはしないだろうが、それは文化

の許容範囲が狭いことも一因としてあるのではないかと思っている。ハギスについてもそうだ。スコットランド特有のものらしい。羊の内臓のミンチ、オート麦、たまねぎ、ハーブを刻み、牛脂とともに羊の胃袋に詰めた料理だと説明される。食べてみればわかるが、これがなかなか味わい深い。

ハギスについてはもう一つネタがある。ハギスという動物がいるというのである。

スコットランドで昔から知られている伝説の生物。くちばしを持ち全身が毛で覆われた姿であるようだ。伝説なので当然捕獲例はない。料理のハギスの見た目がよくないということで、この動物の肉を使っているのだという冗談もあるようだ。毎年末には「ハギスハント (Haggis Hunt)」という検索イベントが開催されているらしい。と、ここまで書いてどこかで聞いた話だなと思った。岐阜県加茂郡東白川村には伝説の生物ツチノコが生息すると言われており、毎年5月の連休にはつちのこフェスティバルと称してツチノコ捜索をする。賞金は毎年1万円加算され、現在は110万円ほどになっているはずである。また、ツチノコのおもちゃが隠してあり、それを見つけると賞品がもらえるようになっている。また、山菜取りを兼ねている部分もある。ちなみに東白川村にはツチノコ資料館というのがあり、かなりやばい。それをみたら、ツチノコを探そうという気にはならない。2m以上跳び、猛毒を持つらしい。当然血清などあるわけがない。ということは、噛まれたら死ぬことになるのに、大人も子どももよろこんで大捜索である。大丈夫か！命知らずの人々よ。

ま、それはそれで楽しいイベントである。

さて、イングリッシュブレックファーストならぬ、スコティッシュブレックファーストの話であった。

朝から一日分の食事かというくらい食べる。だから、一日中歩く旅だとしても昼食を抜くくらいでちょうどいいのである。

今日は少なくとも The macallan と Cardhu、そして、Glen Grant は回りたい。できれば、Craigellachie、や Aberlour にも足を延ばせれば

まずは Cardhu へ行く手段を考えなければならぬ。基本情報は現地を集めるのが一番である。ホテルマンに聞いてみると、車をチャーターするのが一番だと言われた。予想通りだが、なかなかのお値段である。一人なら確実に徒歩である。12km ほどあるがその程度の行程ならば3時間もかからない。アイラ島でも公共交通がない Bunnahabhain まではずいぶんと歩いた。帰りは親切な人が車に乗せてくれたが、やはり、英語は大切だ。乗せてくれた人々はオランダ人男性3人組だったが、英語が堪能だった。こちらも相手の冗談が理解できるレベルにまでなっているが、それだけだ。結局、薄っぺらい内容しか話すことができない。もっと政治のことだとか経済のことだとか、面倒くさいことをぐだぐだ話したいのだが、なかなかそのレベルには達しない。学生の時にもっと話すトレーニングをしておくべきだった。



(夏でもウィンドブレーカーは必要である。)

青樹もいるのでタクシーにするか。自転車でも借りるか。その帰りに The macallan があるので、じっくりと見学する。なんせシングルモルトのロールスロイスと呼ばれるウイスキーである。できる限りのテイastingをしてゆっくりとしたい。Glen Grant は方向がやや違うがバスが出ているので、一旦街に戻ってからバスに乗ればよい。

Craigellachie は見学ツアーはないようだが、Aberlour はあるだろう。一つの蒸留所で3杯テイastingするとして、1杯が 25mL だとすると 25mL×3杯×4蒸留所で 300mL か。

やや飲み過ぎの感もあるが、半日以上かかっ

て飲むのだから大丈夫だろう。

結局近くまでバスで行きそこから歩いた。財力をつぎ込むところと体力でカバーするところにメリハリをつけることで旅はより快適になる。学生の頃は圧倒的に有り余る時間と体力で財力をカバーしたものだが、現在は若干、時間のなさや体力のなさを財力でカバーする傾向がよくなってきた。さらに、学生の頃ならばしなかった贅沢も時にはするようになった。それはそれで成長というものだろう。死ぬまで成長し続けるのだ。決して衰えていくのではない。前向きに変化していくのである。



(参考画像；ポテトチップス)

水とスナックを買ったら、バス停で地図と運行表をみて見通しを持つ。地図はアバディーンの情報で買って置いた。どこの街に行くのにもまずは地図を手に入ると安心である。これは学生の頃、中国一人旅で実践していた。ただ、中国の地図は明らかにわざとだと思いが、地図の周辺エリアに行くにつれて縮尺がきわめていい加減になる。これは様々な戦闘状態になった時、敵国を混乱させるためであろうと信じている。

さて、バスが来て乗り込む。運転手に行きたいところを告げると、そこにはいかないよという。近くまで行ってそこから歩くのだという、降りるべき停留所を教えてくれた。自分で予定して場所と同じだったので安心する。一人だったら、どうということはないが自分の判断がもう一人の運命も左右するかと思うとやはり確実性は欲しい。

バスに乗って間もなく、運転手がここだよと



教えてくれた。空は晴れ、強い日差しが肌を焼く。しかし雲が力強く発生している。特にスコットランドは一日の内に四季があると言われるというのを実際体験しているので、雨に降られることも想定内である。フードをかぶっとしぱらくするとすぐ病むので問題はない。



(参考写真：スコットランドの空)

元気に歩き出す。いろいろくだらないことを話しながら歩いているとあっという間に到着。

**Cardhu 蒸留所。**日本ではあまりなじみのないウイスキーだが、新しいウイスキーとの出会いも楽しいものだ。

**Cardhu Collection Tour £22 1 hour**

A journey through the whisky-making process and a tasting of 6 of our Single Malts.

というツアーがあった。電話予約が必要だったようだがダメもとで聞いたら、いいよということだったので参加を決めた。ということで、いきなり6杯である。ウイスキーづくりの工程や単語は理解できているので、説明もほぼわかる気がする。



(参考画像：テイस्टィングの様子)

本当はテイस्टィングノートを付けたいのだけれど、知りもしないくせになんかメモするのもこっぴどかしいのでやめておいた。

気分よく、蒸留所を出たらバス停まで歩く。近くに、**The macallan**がある。

まもなく昼だが、それほど空腹ではないので、水をしっかり飲んで、次の蒸留所に向かう。

**The macallan 蒸留所。**ここのツアーも予約制だったが、2人を何とか突っ込んでくれた。もっとも小さいと言われる蒸留釜を見学したり、10mLで2杯のウイスキーを楽しんだりした。またショップが充実しており、カフェまであった。カフェが魅力的だったので、それほど空腹だったわけではないが、コーヒーとミートパイを頼んだ。青樹はかなりボリュームのあるメニューを頼んでいた。昼食は抜く計画だったが、結局食べてしまった。ま、そういうものである。その分、歩こう。だが、すぐバスに乗る。そしてホテルの近くで降りたが、なんとそのまま乗ってれば、目的地に行けたことに後で気づく。失敗である。ま、それはそれでいい。水もなくなっていたので、水を補給しバスを待つ。ベンチに座っているとなんか眠くなった。

(現実に戻る。)

ふと気づくと岐阜の自宅のPCに向かっていた。長い長い妄想をしている内に夕方になってしまっていた。随分と長い妄想だった。いや、寝ていた。

現実に戻ってこよう。夕方なので少し飲む。最近ではモヒートを作ることが多い。ラムを使ったカクテルである。ラムは夏の飲み物である。

玄関わきに栽培しているミントで作るモヒートは店で飲むものより3割増し旨い。これだけウイスキーのことを書いておいてラムかよっ！と思うだろうが、お籠り生活の時にミントとパクチーを栽培し始めたのだ。ミントはワシワシ出てくるので、必要な分だけ切って使う。パクチーはプランター3つでローテーションしている。1つのプランターのパクチーを全部食べたら、新しい種をまく。それで長期間たべられるというわけである。とにかく、こうも暑いとウイスキーのストレートはキツイ。ロックア

イスを袋のまま砕き、グラス一杯に詰めたらそれでハイボールをつくって飲むのがいい。新しいボトルを買いたいのだが、棚がいっぱいになったので少しは消費しなければならない。こういう飲み方になるわけだ。

早くコロナ禍が過ぎ去って、普通に花火大会をやってほしい。なぜならば、閑散とはしているか住宅地でパンパン音の出る花火を買ってやりまくる奴が同時多発的に存在するからだ。線香花火などで静かに楽しむという味わい深い夏の夜はもうないのかもしれない。もっとも、線香花火ならば音もほとんど出ないため、どこかでやっても気づかないわけだが。本当に音の出る花火は花火大会のだけにしてほしい。主催者、時間が告知されているのならばひととき我慢すればよいのだが、騒音に対する感性のない輩がする花火はいつ終わるともわからない上に、音質が下品である。正しい花火師があげる花火は風情を感じるが、輩がする花火はやたらとパンパン音がするし、リズムが悪い。本当に苛立つ。今すぐにもエアガンを手に取り、怒りのBB弾を暗闇から弾倉が空になるまで打ちまくってやりたいという衝動に駆られる。改造してパワーアップして目に当たろうが関係ない。奴らの行為に対する報復だ！正義は我にありだ。だかしかし、それを実行に移すことは決してない。エアガンを持ってないし、現在のところ買う予定もないからだ。将来的にはわからんがな……。子どもがやっているのだから仕方ないとはいえない。大体、いい年こいた大人がワイワイやっているからだ。大抵とんでもない量を買ってこんでいるので、騒音地獄は延々と続くことになるのである。自由気ままに花火をやっている輩はいつか自らの行為によってその自由を奪われていくことになる。自由を叫ぶならば、慎みと思考力が必要である。いろいろなイベントでもなんでも結局のところ、そんなノータリンがいるからいろいろ規制が入るんだろうが！人間は本当のところ、自由を適切に使うことのできない生物なのだろうか。法によって規制されなければ生きて行けないのだろうか。勝ち取った自由は大切に使うが、与えられた自

由はその意味も理解できず、無駄遣いしてうくなっていくしかないのだろうか。

しかし、そんな人間にはなりたくないし、そんな人間を育てたくはない。なんでも野放図にやればよいというものではない。自分の行為の影響に思いを巡らせ、他人の存在を認め、相互安全保障の共通理解の上でそれぞれの自由を満喫するような人間を育てていきたい。そのために冒険学校があり、旅はあるのだ。

2021年度は自治会の組長というものが回ってくる。逃げることは許されない。そして、2年連続で中止になったこの地方の特別な祭である「水神祭り」の統括がちょうど回ってくる。これも逃げるのが許されない。大きな作業は祭り船の組み立てである。8/13~双胴船に櫓を組み、提灯で飾る。それを2つ用意し、夕方花火を打ちながら、川を行き来するのである。両舷に連発花火を差し込むものが作っており、まるで航空隊の援護なく出撃した戦艦が弾幕を貼っている状態になる。多くの見物客が来る行事なので去年は増水で、今年はコロナ禍で中止である。そういった行事の統括になると当然その時期には海外逃亡などできない。山村の掟は厳しく基本的人権などという概念はない。過疎が進んでいるので回ってくるのも早い。無理して続けているが、もうそろそろやめにしてもいいのではないかと思う。自分で動けなくなった年寄りたちは許さないだろうが。

というわけで、2021年はコロナ禍が去っていたら、冒険学校には参加できるが海外旅行は8/17以降しかいけない。かなり短くなってしまし、旅仲間との日程調整も難しくなるだろう。テドロスの予測通りコロナ禍が続いていれば、祭りもないが、海外旅行も同時にない。

2021年、コロナ禍が去ったとして夏は①台湾旅行、②冒険学校、③水神祭り、④スコットランド旅行という段取りとなる。サエキツアール2021に参加したい人はいるかなあ、などと声をかけ、さらに日程調整が難しくなる。自由を求めて、何かと自由度が無くなっていく矛盾。

特に問題ではない。人生は楽しい。

(資料①)

2020 夏旅 ～スコットランド・ハイランド地方へウイスキー蒸留所を訪ねて～

◎航空券検索条件

《行き》東京（月曜出発）→アバディーン（月曜到着）、

前泊すれば東京発早朝便可、アバディーン着深夜便を避ける。

《帰り》アバディーン（同じ週の土曜出発）→東京（翌日日曜到着）

アバディーン発早朝便を避ける。

◎航空券検索状況（同じ曜日設定で）

《行き》2020年5月11日(月) 2020年3月22日プラン（2か月前検索）

➤ ブリティッシュ・エアウェイズ BA8 12時間20分

8:50HND 東京 羽田→13:10 LHR ロンドン ヒースロー（接続1時間10分）

➤ ブリティッシュ・エアウェイズ BA1312 1時間40分

14:20LHR ロンドン ヒースロー→16:00ABZ アバディーン

到着：2020年5月11日(月)移動時間：15時間10分

《帰り》2020年5月16日(土)

➤ ブリティッシュ・エアウェイズ BA1307 1時間40分

10:55 ABZ アバディーン→12:35LHR ロンドン ヒースロー（接続2時間55分）

➤ ブリティッシュ・エアウェイズ BA5 11時間25分

15:30 LHR ロンドン ヒースロー→10:55+1HND 東京 羽田

到着：2020年5月17日(日)移動時間：16時間

ブリティッシュ・エアウェイズ 航空会社 ¥133,910

《行き》2020年8月17日(月) 2020年8月11日プラン（6日前検索）

➤ KLM オランダ航空 KL862 11時間40分

10:20 NRT 東京 成田→15:00AMS アムステルダム スキポール（接続1時間15分）

➤ KLM オランダ航空 KL1449| 航空会社：KLM シティホッパー 1時間25分

16:15 AMS アムステルダム スキポール→16:40 ABZ アバディーン

到着：2020年8月17日(月)移動時間：14時間20分

《帰り①》2020年8月22日(土)

➤ KLM オランダ航空 KL1444| 航空会社：KLM シティホッパー 1時間35分

11:05 ABZ アバディーン→13:40 AMS アムステルダム スキポール（接続55分）

➤ KLM オランダ航空 KL861 11時間

14:35 AMS アムステルダム スキポール →8:35+1 NRT 東京 成田

到着：2020年8月23日(日)移動時間：13時間30分

KLM オランダ航空 ¥208,020

《帰り②》2020年9月1日(火)

➤ KLM オランダ航空 KL1442 1時間25分

9:30ABZ アバディーン→11:55AMS アムステルダム スキポール（接続2h40m）

➤ KLM オランダ航空 KL861 11h

14:35 AMS アムステルダム スキポール→8:35+1NRT 東京 成田

到着：2020年9月2日(水)移動時間：15時間05分

KLM オランダ航空 ¥198,020

(資料②)

日程 3/22 概要決定→中止決定→8/11 仮想立案

8/2	日	冒険学校① 6泊7日	キャンプ場
8/8	土	冒険学校⑦	
8/9	日	片付け～移動・旅行最終準備	空港
8/10	月	夏旅 01 (午前) 成田→ (午後) アバディーン	アバディーン SYHA
8/11	火	夏旅 02 Aberdeen→Forres(Benromach)→Elgin(Glen moray)→Craigellachie	クライゲラヒ
8/12	水	夏旅 03 The macallan, cardhu, Glen Grant,	クライゲラヒ
8/13	木	夏旅 04 Craigellachie, Aberlour, Glenfarclas, Tormore, Glenlivet	クライゲラヒ
8/14	金	夏旅 05 Craigellachie→ Dufftown, Glen Fiddich, Balvenie→Keith, Strathisla→Aberdeen	アバディーン
8/15	土	夏旅 06 青樹帰る (午前) Aberdeen→	機中泊 アバディーン
8/16	日	夏旅 07 → (午前) 成田	アバディーン
8/17	月	夏旅 08	インバネス
8/18	火	夏旅 09 ・オークニー諸島	
8/19	水	夏旅 10 ・オークニー諸島 Highland park Distillery	
8/20	木	夏旅 11 ・オークニー諸島	
8/21	金	夏旅 12 ・シェトランド諸島	
8/22	土	夏旅 13 ・シェトランド諸島	
8/23	日	夏旅 14 ・アバディーン	アバディーン
8/24	月	夏旅 15 ・アバディーン	アバディーン
8/25	火	夏旅 16 (午前) Aberdeen→	機中泊
8/26	水	夏旅 17 → (午前) 成田	